

巻頭言

社会と共に歩む 大学を目指して



埼玉大学長

重原 孝臣

SHIGEHARA Takaomi

埼玉大学産学官連携協議会の皆様におかれましては、平素より、埼玉大学の教育・研究活動および産学官連携の推進に対し、多大なるご理解とご支援、ならびに貴重なご助言を賜り、心より御礼申し上げます。

近年、社会を取り巻く環境は、国内外の双方において大きな変化の局面を迎えております。国内に目を向ければ、少子高齢化の進行、地方の衰退、労働人口の減少に加え、生活基盤や社会インフラの老朽化、医療・介護・福祉など基礎的サービス分野における担い手不足が顕在化しています。また、デフレからの転換の動きが見られる一方で、経済格差や社会の

分断といった課題への配慮も、これまで以上に重要になってきております。

国際的には、自由や民主主義、法の支配といった基本的価値観の在り方が改めて問われる中、グローバルな経済・社会の枠組みは転換点を迎えています。気候変動に伴う気象災害の激甚化、エネルギーや鉱物資源をめぐる国際的な競争、さらにはAIテクノロジーの急速な発展に伴う社会的影響の広がりなど、不確実性は一層高まっています。今後数年の間に、日本の国内状況および日本を取り巻く環境は、大きく変化する局面を迎える可能性も否定できません。

このような時代にあって、大学が社会的責務を果たしていくためには、学外の多様な知見や視点を継続的に取り入れることが不可欠です。本産学官連携協議会は、大学の内部組織とは一線を画す独立した協議の場として、社会の側から本学の教育・研究・社会貢献の方向性に示唆を与えていただく、極めて重要な存在です。これまで本学が進めてきた教育・研究改革や産学官連携体制の整備も、ひとえに本協議会の皆様からの率直かつ建設的なご意見に支えられてきたものと考えております。

2026年度は、本学にとって、第5期中期目標期間(2028~2033年度)を見据えた施策を具体的に練り上げる、極めて重要な一年となります。教育・研究・社会貢献を三位一体で推進していくにあたり、本協議会が有する視点と知見は、今後ますます重要性を増すものと考えております。引き続き、忌憚のないご意見とご助言を賜りながら、社会と共に歩む大学としての機能強化に取り組んでまいりますので、本年度も変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

CONTENTS >>>

- 01 巻頭言「社会と共に歩む大学を目指して」埼玉大学長 重原 孝臣
- 02 「第26回埼玉大学産学交流会テクノカフェ」を開催
- 03 「埼玉大学オープンカンパニー」を実施
- 04 研究会活動「埼玉グリーンインフラSDGs研究会」「人と協働するロボット技術研究会」
- 05 研究会活動「スタートアップ・新規事業創出研究会」「防災DX研究会」
- 06 研究会活動「データサイエンス研究会」／「令和7年度 彩の国ビジネスアリーナ」へ出展
- 07 2025年度 3D-CAD&3Dプリンター研修(さいたま市連携事業)実施報告
- 08 「令和7年度 埼玉りそな産業経済振興財団 産学官連携セミナー」を後援／「令和7年度 埼玉大学特別公開講座」を後援
- 09 会員企業訪問記「ポーライト株式会社」
- 10 『彩の国Komvuxプラットフォーム』紹介
- 11 新会員紹介
- 12 オープンイノベーションセンター 産学官連携活動カレンダー

Report

1 「第26回埼玉大学産学交流会テクノカフェ」を開催

埼玉大学産学官連携協議会では、2025年11月26日（水）に第26回埼玉大学産学交流会テクノカフェを開催しました。協議会会員企業・団体の他、会員外企業、大学教職員及び学生等、85名の方に参加いただきました。

今回のテクノカフェは「脱炭素社会に向けた挑戦」とテーマを掲げ、カーボンライジング時代に向けて、企業・学術界・行政関係者が一堂に会し、脱炭素化の重要性を共有しながら、具体的なアクションの構想に繋がる場にしたと企画いたしました。



開会挨拶（増田文治 会長）



学長挨拶
（坂井貴文 学長（当時））

第1部では、埼玉大学産学官連携協議会 増田文治会長の開会挨拶、埼玉大学 坂井貴文学長（当時）の挨拶に次いで、基調講演が行われました。一般財団法人電力中央研究所シニアエキスパート 小山正史氏から「カーボンライジング時代の発電技術について」と題し、ご講演いただきました。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の気候変動予測や国内外



基調講演
（一般財団法人電力中央研究所シニアエキスパート/小山正史氏）

の脱炭素政策、GX推進法、排出量取引制度、EUのCBAM（国境炭素調整措置）などの動向を整理するとともに、各電源のライフ



基調講演

サイクルCO₂排出量を踏まえた評価の重要性が示されました。さらに、再エネの課題、火力発電の高度化、原子力およびSMR（小型モジュール炉）等の展望が紹介され、安定供給・経済性・環境性のバランスの必要性が強調されました。

続く第2部では、大学教員研究成果等の事例発表が行われ、3人の研究者から、最新の研究トピックスについて講演がありました。塩田達俊准教授からは、製造ライン上での高速・非接触3次元検査技術が紹介され、インライン全数検査への応用可能性が示されました。姜東赫准教授からは、少ない計測点から流れ場を再構築するデータ駆動型流体解析が解説され、低コス

ト・高効率な解析手法の有用性が示されました。山口雅利准教授からは、植物バイオマス改変と標的遺伝子に関する研究が紹介され、持続可能エネルギー・高付加価値材料創出への展望が示されました。



コーヒーブレイク



研究成果等事例発表
（塩田達俊 准教授）



研究成果等事例発表
（姜東赫 准教授）



研究成果等事例発表
（山口雅利 准教授）

学内教員研究成果等の事例発表（発表順）

「製造ライン上で高速な非接触3次元検査装置」
大学院理工学研究科 数理電子情報部門 塩田達俊 准教授

「少ない計測で流れの秘密を解き明かすデータ駆動型流体解析の紹介」
大学院理工学研究科 機械科学部門 姜東赫 准教授

「植物バイオマス改変とその標的遺伝子」
大学院理工学研究科 物質科学部門 山口雅利 准教授

第3部交流会（懇親会）には、60名の方に参加いただきました。COEDOビール各種を楽しみながら、名刺交換やご歓談の時間をもちました。和やか



交流会（懇親会）

な雰囲気の中での情報交換やネットワークづくりは今後の連携に向けた第一歩となりました。

産学交流会テクノカフェは、今後も内容をさらに充実させ、産業界、学術

界、行政関係者の皆様方にとって有意義な交流の場をご提供できるよう努めてまいります。次回以降も皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ご意見・ご感想（参加者アンケートより）

- いずれの講演も興味深く、様々な技術に触れることができました。
- 産学連携のシーズを知るきっかけをいただきました。協業の機会を探っていきたいと思います。
- 大学教員研究成果等の事例発表について、個別に相談したいと思いました。
- 会場が大学で雰囲気がよかったです。時間配分がちょうどよかったです。

Report

2 「埼玉大学オープンカンパニー」を実施

2027年3月卒業（修了）予定の学生を対象としたオンラインオープンカンパニー（主催：埼玉大学キャリアセンター／運営協力：株式会社NeXT STAR）が、2026年2月16日（月）から20日（金）の5日間にわたり開催されました。全体の参加企業139社のうち、会員企業からは19社にご参加いただきました。

従来は3月1日から合同企業説明会を開催しておりましたが、学生の要望や参加企業の皆様からのお声を踏まえ、2022年度より2月に「オープンカンパニー」として実施しています。本説明会は、学生が企業や業界への理解を深めるための機会を提供するものであり、当協議会においては会員企業の人材確保支援事業として位置付けています。

今年度は、昨年度の参加希望企業の状況を踏まえ、受入枠を130社から140社へ拡大して実施しました。参加枠には限りがありますが、会員企業については確実にご参加いただけるよう配慮しています。また、専門業者（株式会社NeXT STAR）への運営委託により参加費は有料となっておりますが、会員

企業には「会員特別価格」を適用し、参加しやすい環境を整えています。

さらに、合同企業説明会のポータルサイト上では、埼玉大学産学官連携協議会の会員企業であることがわかるよう表示を行い、情報面での差別化にも努めています。

今回のオープンカンパニーも昨年度に引き続きオンライン形式で実施し、参加企業はLIVE配信を通じて学生

に企業や業界の魅力を発信しました。加えて、トーク進行のサポートや質問項目の提案を含む「埼玉大学との対談セミナー枠」を設けるなど、企業・学生双方が参加しやすい運営を実現しました。

企業の人材確保の重要性が一層高まる中、学生と企業双方にとって価値ある出会いの場を提供できるよう、今後も取り組みを進めてまいります。

説明会参加会員企業 19社

50音順

AGS株式会社	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社	株式会社埼玉りそな銀行
シグマ光機株式会社	株式会社システムインテグレータ	株式会社芝浦電子
西武造園株式会社	株式会社タカインフォテック	TANAKEN株式会社
株式会社タムロン	内藤環境管理株式会社	日清紡マイクロデバイス株式会社
日本信号株式会社	日本電波工業株式会社	早坂理工株式会社
株式会社ビットマイスター	株式会社フコク	ボーライト株式会社
株式会社武蔵野		

埼玉大学産学官連携協議会 研究会活動

埼玉グリーンインフラSDGs研究会

代表：藤野 毅(大学院理工学研究科・教授) 事務局：村井 亮介(産学官連携コーディネーター)



第2回研究会(12月16日(火))では、多くの活動が紹介されました。

まず、見沼田圃のモリンガ栽培が「市報さいたま12月号」の特集記事となり、GPIC合同会社の圃場管理ボランティアを募った結果、見沼田圃政策推進課に問い合わせがあり、多くの市民が参加するようになりました。

次に、内藤環境管理株式会社が人工芝チップ中のPOPsを詳しく解析さ

れ、結果を高分子分析討論会で発表されました。国内に流通する市販のゴムチップはごく一部の化学物質が認められました。さらにチップが石油由来であれば人工芝はマイクロプラスチックの発生源となります。そこで、栽培したモリンガの枝を主原料とし、サトウキビを主原料とするポリ乳酸をコーティングしたところ、見事に人工芝ゴムチップの代替品として使えそうになりました。さらに実験では温度が10℃も下がります。

この他、GPIC合同会社と浦和レッズによるSOIPプロジェクト「モリンガを育ててみよう!」では、秋ヶ瀬のレッズランドの農地でサポーターの家族とモリンガを培したり、国土交通省・環境政策課が主催する「グリーン

インフラフォーラムinさいたま(12月23日(火))」では、本会代表がパネリストとして研究会活動を紹介しました。モリンガ栽培によるCO₂吸収・固定の関心は着実に高まっています。

令和7年度で3年目を迎えたモリンガ栽培ですが、全国の中でも最も成長が良いのはさいたま市の日照率の高さが大きく関係していることも分かり、大きな特徴と言えます。



人と協働するロボット技術研究会

代表：小林 貴訓(大学院理工学研究科・教授) 事務局：藤山 斉(産学官連携コーディネーター)



「人と協働するロボット技術研究会」では、11月19日(水)に第4回研究会をオンラインにて

開催いたしました。多くの方々に参加頂きました今回の研究会では、「なぜロボットはお茶を持ってきてくれないのか?」という非常に興味深いタイトルで、中京大学ヒューマン・ロボティクス研究センター長の橋本学先生にご講演を頂きました。

ChatGPTのような大規模言語モデルの発展を背景に、AIによる業務の効率化が注目を集めています。このような社会では、「人と協働するロボッ

ト」においても、ユーザと対話し、意図を理解して行動してくれることが期待されます。

本講演では、人と協働するロボットによる物理作業の効率化に向け、言語やデータの世界で発展するAIを実世界で動作するロボットに適用する手法について、具体的な事例を交えて解説を頂きました。ロボットがタスクを達成するには、まず、「行動プランを作

成できる」ことが必要で、次に、「物理的動作を実現する」ことが必要になるという枠組みからご説明頂き、AIが作成した行動プランの間違いを修正する手法や、物理的動作を実現するための道具の認識や道具を使うためのロボットの動作生成手法について、具体的な研究事例をもとに詳細な解説を頂きました。最先端の取り組み内容のご紹介でしたが、「お茶を入れる」という身近なタスクを例に分かりやすくご説明頂き、大変興味深いご講演となりました。

当研究会は本年度の活動をもって一区切りとなります。会員の皆様に高い関心をお寄せ頂き、これまで活動することができましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

お茶会ロボットは、なぜ難しいのか?



スタートアップ・新規事業創出研究会

代表：赤羽根 康男（オープンイノベーションセンター・客員教授）、本間 俊司（オープンイノベーションセンター・教授） 事務局：高橋 英紀（産学官連携コーディネーター）



2025年9月25日（木）、第3回スタートアップ・新規事業創出研究会が、埼玉大学総合研究棟1号館1階シアター教室・ホールにて開催され、会員、学生、教職員あわせて38名が参加しました。

当日は、本年度から新たに始動した埼玉大学アントレプレナーシップ教育プログラムについての紹介が行われ、

「アントレプレナーシップ序論」および「アントレプレナーシップ実践演習」の内容や狙いが共有されました。教育を通じて起業家精神を育み、社会課題の解決や新規事業創出へとつなげる具体的

な取り組みが示されました。

続いて、株式会社LIFE AIおよび株式会社MIWA Akerun Technologiesの代表者より、スタートアップの最新動向として、それぞれの事業内容や起業の背景、成長に至るプロセスについて講演が行われました。実践的な経験に基づく話は、参加者にとって多くの示唆を与えるものとなりました。

講演後の質疑応答・討論では、スタートアップ支援のあり方や大学と産業界の連携、教育と実践の接続について活発な意見交換が行われました。

また、終了後の情報交換会では学生も含めて活発な交流が行われ、分野や立場を越えたネットワーク形成が促進されました。

本研究会は、スタートアップへの理解を深め、新たなビジネスやイノベーションの創出を目指して、今後も継続的に開催されます。次回以降の研究会にも、ぜひご期待ください。



防災DX研究会

代表：齊藤 正人（大学院理工学研究所・教授） 事務局：金谷 康弘（産学官連携シニアコーディネーター）

2025年度の防災DX研究会の活動をご報告いたします。

2025年6月19日（木）に第1回研究会を開催し、JX通信社をお招きして、防災・危機管理分野における情報活用やデジタル技術の最新動向についてご講演いただきました。

11月17日（月）には第2回研究会を開催し、7月に設立された「地域レジリエント社会研究コンソーシアム」地理情報活用WGとの共催による交流を行いました。堤田成政准教授（現：富士通株式会社 富士通研究所 宇宙データフロンティア研究センター）より、合成開口レーダーを用いた洪水把握技術の紹介や、洪水ハザードマップと人流データ・3次元建物データを活用した動的リスク評価に関する研究をご紹介いただきました。また、研究会会員からは、リアルタイム被害予測

や衛星データを含めた災害時のデータ利活用などについて話題提供がありました。

2026年2月4日（水）の第3回研究会では、「地方自治体の防災体制と地理情報活用の展望」と題した講演会を地理情報活用WGと共催いたしました。埼玉県危機管理防災部災害対策課の吉田広毅様より、埼玉県の防災体制とDXの取組についてご説明いただきました。また、あいおいニッセイ同和損害保険の多嘉良朝恭様からは、民間企業の取組として「地域のリスクを共有す

る埼玉モデルのご提案」と題した話題提供をいただきました。

いずれの回も多くの参加者による活発な討議が行われました。こうした活動を通じて、産学官民の防災DXに係る取組の深化と地域防災力の向上が図られることを期待しております。



データサイエンス研究会

代表：平松 薫（大学院理工学研究科・教授） 事務局：金谷 康弘（産学官連携シニアコーディネーター）



データサイエンス技術研究会をリニューアルした本研究会では、2025年9月と12月に研究会を実施しました。

9月に実施した第1回研究会では、埼玉大学の市川裕介教授を講師にお招きし、「生成AIからAgentic AIへ」と題して開催しました。従来の生成AIとの対話が一問一答形式で進むのに対し、Agentic AIは何をすべきかを自律的に考え、必要に応じて追加情報を求め、外部サービスと連携しながら成果物を

作成します。研究会では技術詳細の説明のあと、参加者が宿題の成果を持ち寄り、実際にできたことを共有しました。

また12月に実施した第2回研究会では、常連参加者2名を講師にお招きしました。

1件目は、さいたま市産業創造財団事務局長 佐々木哲也様に「簡単なチャットボットからデータサイエンスによる企業支援まで」と題してご講演いただき、規程集Q&Aチャットボットや融資・福利厚生サービスの自動応答シ



ステムの開発など、組織の課題解決に向けた試行錯誤の過程をご紹介いただきました。2件目は、LangCloudテクノロジーズ合同会社代表 小林竜己様に「AIエージェント現場導入の勘どころ」と題し、様々な人が働く現場にAIエージェントを導入し、データドリブンな現場へと変革していくための勘所を紹介していただきました。

今後の活動にもご期待ください。引き続き、皆様のご参加をお待ちしております。

Report

4

「令和7年度 彩の国ビジネスアリーナ」へ出展

「令和7年度 彩の国ビジネスアリーナ」（主催：埼玉県ほか）が2025年11月18日（火）・19日（水）の2日間にわたり、さいたまスーパーアリーナで開催されました。埼玉大学単独としては数年ぶりに出展しました。

本イベントは、中小企業の受注拡大や販路開拓を支援する県下最大のビジネスマッチングイベントで、サーキュラーエコノミー／GX、DX・AI、加工技術、ロボット・省力化機器、人材・ビジネスサポートなど、多様な分野の企業・大学・支援機関が集う場として知



られています。今年は埼玉県を中心に481件の技術シーズ・製品・サービスの出展があり、2日間で延べ10,674名が来場し、例年以上に活発な交流が行われました。

埼玉大学のブースでは、オープンイノベーションセンターが進める産学官連携事業を紹介するとともに、本学が保有する多彩な研究シーズや先端技術を展示しました。センシング材料、AI・情報技術、医工連携など幅広い分野の研究成果に対し、多くの企業・自治体担当者から質問や技術相談が寄せられ、共同研究の可能性を探る具体的な意見交換も多く見られました。特に、大学の知的資源を活用した共同研究の事例紹介や、産学官連携



の仕組みに関する説明には高い関心が集まり、出展内容は大変好評を博しました。

また、「埼玉大学研究シーズ集2025-27」を始めとした配布資料や技術資料を多くの来場者に手に取っていただき、本学の研究力を広く発信する良い機会となりました。

Report

5

2025年度3D-CAD&3Dプリンター研修(さいたま市連携事業)実施報告



■ 開催方法の変更と成果

2025年度は、研修のコース名を見直すとともに、各コースで使用するテキストの再整備を行いました。また、新規コースとして「3D-CAD実践ワークショップ」を追加し、全体の開催回数を適正化することで、より集中して受講いただける体制へと改善しました。

さらに、「高度ものづくり人材育成」という本来の目的を再確認し、企業での実務に直結する研修とするため、対象者を企業所属の方に限定する運営方法へと変更しました。

その結果、延べ213名の企業の方からお申し込みをいただき、1回あたりの平均受講申し込み者数は、約9名(コース定員10名)となりました。本年度もおかげさまで全日程を終了することができ、今年度の開催方法は一定の評価を得られたものと考えております。

■ 講師陣について

本年度の研修も昨年度同様、埼玉大学大学院理工学研究科の阿部准教授や、埼玉大学総合技術支援センターの技術職員をはじめとしたプロフェッショナルな講師陣によって進められました。

■ 特別編その1

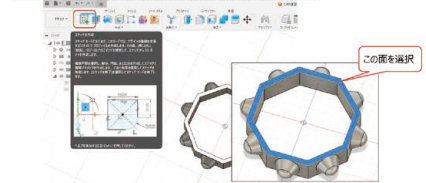
「医療・介護のための3Dものづくり入門」

昨年度に引き続き、埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科の小池准

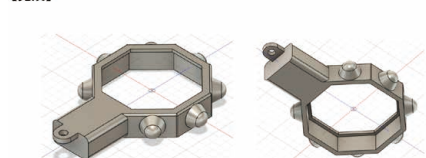
教授と、本学の阿部准教授の連携により、本コースを実施しました。本コースは、医療・福祉の現場で働く方々を対象とし、障害のある方のQOL(生活の質)向上に寄与する道具作りを学ぶ研修です。

今年度は生成AIを活用したサンプル探索や造形に加え、ペットボトルキャップオープナーの設計・製作を行いました。多くの医療従事者の方に受講いただき、高い関心が寄せられたことから、来年度(2026年度)も引き続

【力がかりやすいように、大きな突起部をつくる】



【完成】



き実施する予定です。

■ 特別編その2

「3D-CAD実践ワークショップ」

新規の特別編として「3D-CAD実践ワークショップ」を開催しました。本研修は、受講者自身が主体的にモデリングや造形に取り組む、実践重視の自由演習型コースです。自分のペースで課題やアイデアに挑戦し、必要に応じて講師のサポートを受けながら、「自ら学び、試し、気づく」ことを重視した内容となっています。

来年度は、課題をご用意いただけない受講者向けに演習課題の充実を図るとともに、簡単な試作部品・修理部品の製作が可能な場としても活用いただけるよう改善し、受講者数の拡大を目指してまいります。



■ 今後の方向性

本研修は来年度(2026年度)に13年目を迎えます。特別編で得られた成果に加え、従来の研修コースの受講申し込み状況やアンケート結果を踏まえて受講生のニーズを分析し、これまでの良い点を活かしつつ、さらなる改善を進めてまいります。

今後も新しい技術を習得できるコースの開発や、既存コースの内容見直しを継続的に行い、企業の高度ものづくり人材育成に一層貢献できる研修運営を目指してまいります。

Report

6 「令和7年度 埼玉りそな産業経済振興財団 産学官連携セミナー」を後援

公益財団法人埼玉りそな産業経済振興財団主催の産学官連携セミナーが、2026年1月30日（金）、埼玉大学において開催されました。「持続的成長をサポートする研究最前線」をテーマに、埼玉大学大学院理工学研究科の教員3名が講演を行いました。幅広い業種・業界から48名にご参加いただき、産学官連携協議会は本事業を後援いたしました。

第1部では、「私たちの街の未来を探る～公共交通研究の最前線」と題し、須ヶ間淳助教がご講演を行いました。公共交通の課題を踏まえ、数理最適化・機械学習を活用した交通網設計や運賃最適化、自動運転バスや

AAMの有用性評価などが紹介されました。

続いて、「持続可能な社会を拓く触媒・電気化学プロセスの最前線」と題し、荻原仁志教授がご講演を行いました。脱炭素社会の実現に向け、CO₂資源化や水素製造、アルコール電解など最新の研究成果が発表されました。

最後に、「ペロブスカイト太陽電池の基礎と高速製造プロセス」と題し、石川良助教が研究内容をご紹介しました。特徴と課題を整理するとともに、高速製造プロセスの研究開発が紹介されました。

第2部の交流会では、講演者を中心に参加者同士の活発な情報交換が行



われました。

本セミナーは、経営者をはじめ、製造業を中心とする技術者・研究者の皆様へ本学の研究シーズを発信する貴重な場となっています。産学官連携協議会としても、今後も引き続き後援を予定しております。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

Report

7 「令和7年度 埼玉大学特別公開講座」を後援

一般社団法人埼玉県経営者協会主催「令和7年度埼玉大学特別公開講座」が、2026年2月13日（金）にソニックシティビル会議室で開催され、同協会会員を中心に14名が参加しました。本事業は産学官連携協議会が後援いたしました。埼玉県経営者協会 廣澤健一専務理事の開会挨拶に続き、埼玉大学の教員2名が講演を行いました。

第1部では「なぜ世界に経済に人生



に『芸術と人文学』が必要なのか?」と題し、埼玉大学大学院人文社会科学研究所 加藤有希子

教授からご講演いただきました。

講演では、「芸術・人文学」が日本文化を支え、国際的にも評価されてきたことが示されました。また、「美学・感性学」について歴史的背景とともに、感性が重視される現代社会でのビジネスとの結びつきにも触れられました。さらに、変化と不確実性の時代である今日、科学・人文学・アート・ビジネスが協力して新しい問いや価値を生み出す可能性について提起されました。

続く第2部では、埼玉大学大学院人文社会科学研究所 ビュールク トーヴェ ヨハンナ教授よ



り、「江戸の大名屋敷における素人芝居にみる日本の〈やってみる〉文化」と題してご講演いただきました。

江戸歌舞伎を支えた「やってみる文化」についてや、当時の歌舞伎劇場をめぐる経営の仕組みについて解説されました。

また、現代の事例としてYouTubeにおける創作活動を取り上げ、模倣から始まった作品が独自の価値を生み出す点を示されながら、参加者に現代社会における「やってみる文化」についての考察を促されました。

埼玉県経営者協会と埼玉大学は、地域産業の発展と人材育成を目指し、今後も連携を続けてまいります。



会員企業訪問記

学生レポーター

生澤知佳 鴨治英祐
白井凜太郎 高橋翔
大学院理工学研究科
物質科学専攻
博士前期課程1年

「粉末冶金のグローバルリーディングカンパニー」

ポーライト株式会社

COMPANY PROFILE

所在地: 埼玉県北足立郡伊奈町小室4852番地1
設立: 1952年11月24日
代表者: 代表取締役社長 菊池 正史
事業内容: 粉末冶金製品の製造および販売



Interview

1 概要

ポーライト株式会社は、1952年の創業以来、粉末冶金技術を核とした精密部品メーカーとして世界をリードしています。世界トップシェアを誇る含油軸受をはじめ、自動車、家電、OA機器など、私たちの生活に不可欠な製品の動きを支えるグローバル企業です。現在では海外に生産拠点4か国、営業拠点3か国を有し、世界中に高品質な製品をタイムリーに供給できる体制を構築しています。また、2024年には本社工場を新設し、環境に配慮した工場へと生まれ変わりました。



モータ用含油軸受において世界シェアNo.1を誇ります。顧客の要望に合わせて一から設計するオーダーメイド体制が整っており、様々な分野で活用されています。また、インタビューでは、この技術は素材の配合や形状の工夫次第で「可能性が無限大」に広がるという伺いました。高度な技術力により、既成概念にとらわれないものづくりを実現している点に大きな魅力を感じました。



環境に配慮した新工場

CO₂削減に徹底して取り組む新工場では、持続可能な社会の実現に向けた先進的な設備が導入されています。屋上の太陽光パネルによる再生可能エネルギーの活用に加え、工場内には大型シーリングファンを設置し、効率的な空気循環を実現しています。さらに、地中温度を利用した換気システムであるクールピットを導入することで、空調負荷を抑えながらCO₂排出量を大幅に削減しています。



Interview

3 学生目線

今回の訪問で印象に残ったのは、地域社会との繋がりを大切にされている点です。近隣の小中学校への出前授業や、地域住民の方々を招いた工場見学を実施されており、地域交流が盛んに行われていることを知りました。地域への貢献という社員の方々の想いが、地域に愛される企業づくりにつながっていると感じました。

世界を相手にする高い専門性を持ちながらも、伊奈町の住民との交流を絶やさぬ姿勢に、これからの企業が目指すべき理想の姿を学びました。

おわりに

今回の企業訪問では工場見学や説明を通して多くを学ぶことができ、大変有意義な時間となりました。

お忙しい中、私たちのために貴重なお時間を割き、真摯に質問に答えてくださった社員の皆様へ、心より感謝申し上げます。

Interview

2 TOPICS

「金属×多孔質体」無限の可能性

ポーライトの強みは、金属粉を押し固め、加熱して製品とする粉末冶金技術です。特に、焼結材料の多孔質構造を利用した焼結含油軸受は、小型

『彩の国Komvuxプラットフォーム』紹介

文部科学省の「リカレント教育エコシステム構築支援事業」に申請し採択された「産学官金協働による『彩の国Komvuxプラットフォーム』構築事業」は、埼玉大学・埼玉県立大学・ものづくり大学の3大学を中心に、県内の産学官金の多様な機関が連携して立ち上げた取組であり、県内企業等の競争力強化と地域課題の解決に向けたリカレントの学びの機会を提供するものです。

事業名称にある「Komvux」は、1968年にスウェーデンで導入された自治体運営の成人向けリスティング教育機関に由来します。本事業はその考え方を埼玉のニーズに合わせてアレンジし、講座の企画・開講に加え、受講者同士が組織を越えてつながる「リカレントコミュニティ」づくりにも力を入れています。

事業の特徴は、①企業等の人材育成ニーズの把握、②プログラム（講座）の企画・開発、③実施と受講者評価、④結果を踏まえた改善、という循環を、参画機関が分担・協働して回している点です。さらに、受講前の相談やコーディネートを通じて「自社・自組織に今必要な学び」を見立て、最適な講座とのマッチングを支援

します。

プラットフォームが用意するプログラムとしては、①企業変革をなし得る経営者層育成、②新ビジネス・価値創造をなし得る人材育成、③AI・DXによる企業競争力強化を推進できるマネージャー育成、④

DXものづくりを支える現場変革人材育成、⑤医療・福祉現場の業務効率化を達成しうるDX人材育成、の5つを柱に展開しています。



コミュニケーション講座

そして、現在、各プログラムのもとで、すでに終了したものも含め、数多くの講座が開設され、好評を博しています。自社の未来を考える企業変革実践会をはじめ、データサイエンス（初級コース）、ドローン活用基礎講座、経営マネジメント講座、ロボット活用実演・体験講座、デジタルものづくり革新講座、コミュニケーション講座、デザインセミナー in 渋沢MIX、新サービス・商品企画講座、専門職連携を基



経営マネジメント講座

盤にした保健・医療・福祉事業所の経営者と管理者のための実践的マネジメント講座など、基礎から現場で「明日から試せる」実践型講座まで、幅広い講座を開講しています。講座は対面とオンラインを組み合わせ、対面の場合は渋沢MIXやソニックシティ等のアクセスしやすい会場も活用するなど、多忙な方でも参加しやすい工夫をしています。

受講された方々からは、「学びが自社の課題に直結した」「同じ立場の仲間とつながれた」など前向きな声が寄せられています。講座情報・申込みは、以下の公式サイトで随時更新しています。2026年3月10日に埼玉大学で第1回のシンポジウムが開催されましたが、その時の模様もサイトにて公開しておりますので、是非ご覧ください。

<https://www.saitama-komvux.jp/>



新サービス・商品企画講座



WEBサイト

1 沖電気工業株式会社

OKIは明治14年に創業した日本最初の通信機器メーカーです。140年以上にわたり「進取の精神」で技術力を培い、社会に貢献してきました。ネットワーク、ハードウェア、光などのコア技術と、AIなどの最先端技術を融合させて、通信、交通、金融、製造、防災、医療などあらゆる領域にて新たな価値を創出し、世界中に“新しいあたりまえ”を届けます。

- ① 電気機器等の開発・製造・保守・その他サービス
- ② 東京都港区虎ノ門1-7-12
- ③ <https://www.oki.com/jp/>
- ④ 1949年(昭和24年)11月1日
- ⑤ 代表取締役社長 森 孝廣
- ⑥ 「進取の精神」をもって、情報社会の発展に寄与する商品を提供し、世界の人々の快適で豊かな生活の実現に貢献する。



社会の大丈夫をつくっていく。

2 大日精化工業株式会社

世界のいたるところで空間やモノは彩られています。大日精化グループは、「彩り」の素となる顔料だけでなく、プラスチック着色剤やインキ・コーティング剤、顔料分散体など、彩るものに合わせた製品も揃えています。また、大日精化工業は、こんな機能があれば便利!といわれる機能性材料や樹脂合成の開発力で高い評価をいただいております。「その先」を目指して事業と技術を磨き続けています。

- ① 無機・有機顔料及び加工顔料、プラスチック着色剤、繊維用着色剤、印刷インキ・コーティング剤及び関連機械、合成皮革材料などウレタン樹脂、天然物由来高分子、機能性付与材料、CCMシステムの製造及び販売
- ② 東京都中央区日本橋馬喰町一丁目7番6号
- ③ <https://www.daicolor.co.jp/>
- ④ 1939年(昭和14年)12月20日
- ⑤ 代表取締役社長 高橋 弘二
- ⑥ 企業理念・人に興味を持つ
新しいことに興味を持つ・未来に興味を持つ



彩り、その先へ 今日の未知は、未来への道

3 株式会社NTT DXパートナー

弊社は、地域の企業や自治体、教育機関等の課題解決に向け、構想策定から実装・運用、自走まで一貫して伴走支援をさせていただいております。コンサルタントとエンジニアが半々程度の社員60名程の小さな会社です。現在、産学官金連携によるリスクリング推進の取組「彩の国Komvuxプラットフォーム」において、埼玉大学様はじめ関係機関の皆様と連携しております。

- ① DXコンサルティング・人材育成
- ② 東京都新宿区西新宿3-19-2
NTT東日本本社ビル9F
- ③ 03-6803-7500
- ④ 2022年(令和4年)1月31日
- ⑤ 代表取締役 阿部 隆
- ⑥ 「DXのその先に、
魅力あふれる地域の個性を」



創立4周年記念日の様子

4 第一生命保険株式会社

第一生命は、1902年の創業以来、お客さま本位(お客さま第一)を経営の基本理念に据え、生命保険の提供を中心に、地域社会への貢献に努めてきました。

これからも、埼玉県内の企業・団体さまに対し、それぞれの企業の課題に寄り添った商品・サービスをご提供させていただきます。

- ① 生命保険業
- ② 東京都有楽町1-13-1
- ③ <https://www.dai-ichi-life.co.jp/>
- ④ 1902年(明治35年)9月15日
- ⑤ 代表取締役社長 隅野 俊亮
- ⑥ 「一生涯のパートナー」「お客さま第一主義」



5 アイオライト株式会社

埼玉県入間市を拠点に「地域創生と健康」をテーマに掲げ、愛犬と飼い主様のコミュニティ拠点「くろすわんわんパーク&かふえ」の運営や、耕作放棄地を活用した「入間のモリガ茶」の生産・販売を行っています。地域資源の利活用とウェルビーイングの実現を目指し、産学官連携を通じて持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

- ① 地域活性化事業、
飲食店・ドッグランの運営、
農産加工品の企画・販売
- ② 埼玉県入間市鍵山1-8-21
- ③ <https://www.aiolight.jp/>
- ④ 2021年(令和3年)6月23日
- ⑤ 代表取締役 関根 沙織
- ⑥ 地域と健康を、笑顔でつなぐ。



外観シオラマ

6 ケイワート・サイエンス株式会社

弊社では、未利用資源である「もみ殻」が持つ特有の構造や反応性を活かし、ケイ素化合物やセルロースなどの技術的優位な原料を開発する研究開発型ベンチャーです。石油に依存しない持続可能な素材を、半導体・電子材料・医薬品分野へ展開し、新しい産業基盤の創出を目指しています。

- ① 製造業
(化学工業、石油・石炭製品製造業)
- ② 埼玉県さいたま市緑区
大字南部領辻3204-1
PROSPER ONE 101
- ③ <https://k-wort.co.jp/>
- ④ 2021年(令和3年)1月
- ⑤ 代表取締役 前ノ 園 晃
- ⑥ 自然に学び、産業を再設計する



2026年度 オープンイノベーションセンター

産学官連携活動カレンダー (予定表)

月 日	イベント	場 所	
4	第1回 埼玉大学産学官連携協議会 運営委員会	埼玉大学	★
5			
6 15(月)	第2回 埼玉大学産学官連携協議会 運営委員会	ソニックシティビル4階 市民ホール	★
	第27回 埼玉大学産学官連携協議会 定期総会・交流会	ソニックシティビル4階 市民ホール	★
7			
8	大学見本市2026～イノベーション・ジャパン	東京ビッグサイト	
9			
10 6(火)	第3回 埼玉大学産学官連携協議会 運営委員会	埼玉大学	★
	JST ～首都圏北部4大学連合～ 新技術説明会	オンライン	
11 25(水)	第27回 埼玉大学産学交流会 テクノカフェ	埼玉大学	★
28(土)～30(月)	第77回 埼玉大学むつめ祭	埼玉大学	
12	埼玉県経営者協会主催 埼玉大学特別公開講座	未定	
1	令和8年度 埼玉りそな産業経済振興財団 産学官連携セミナー	未定	
2	埼玉大学オープンカンパニー	埼玉大学	★
3	第4回 埼玉大学産学官連携協議会 運営委員会	埼玉大学	★

★埼玉大学産学官連携協議会関連事業

埼玉大学産学官連携協議会

第27回 定期総会

埼玉大学産学官連携協議会の定期総会を開催いたします。
当協議会の益々の発展のため、多くの皆さまのご出席をお願いいたします。

日 時	▶	2026年6月15日(月) 13:30～18:00(予定)
会 場	▶	ソニックシティビル 4階 市民ホール 401-404
議 題	▶	2025年度活動報告および決算報告 / 2026年度活動計画(案)および予算(案) / 役員改選 ほか
講 演	▶	埼玉大学の研究トピックスに関する題目にて調整中

※申込方法等の詳細は、別途ご案内を送りいたします。

新規研究会テーマを随時募集中です

埼玉大学産学官連携協議会では、本会会員および埼玉大学教職員等が協同し研究会活動を行うことを支援しております。「具体的な技術課題の解決に向けた研究活動」から「研究課題の予備調査」、「公的研究費獲得による産学官連携の共同研究のための先行研究」等にご活用いただけます。ご興味のある方は、下記の連絡先までお気軽にお問合せください。

発行
埼玉大学産学官連携協議会

〒338-8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学オープンイノベーションセンター内

TEL : 048-858-9064 E-mail : s-kyougikai@gr.saitama-u.ac.jp

URL : https://www.saitama-u.ac.jp/research/coalition/kyougi/kyougi_about/

ニュースレターに関する
簡単なアンケートに
ご協力をお願いします